

## 教える 育む 学び合おう

日本人の死因の1位で、2人に1人が一生のうちにかかるおそれがあるがん。橋本市は今年度、市立小学校15校全ての6年生を対象に「がん教育」を実施している。児童が、がんについて正しい知識を身に付け、予防のための心構えや対処法を学ぶため、伊都医師会などと連携して始めた。

文部科学省による「がん」の国が定める「がん対策推進基本計画」(2012～16年度)には、がん教育推進の検討が盛り込まれ、14～16年度に各都道府県と政令市の小中高校からモデル校を選んで実施している。今年度は全国137校で取り入れ、17年度からは「中高を中心に小学校も加え、実情に応じて可能な学校から導入したい」としている。

橋本市は現在、紀和

### がん教育～生命の授業



がん教育の授業で梅村医師(右)の話に聴き入る子供たち—橋本市立比其小で

病院の乳がん専門診療施設「紀和フレスト(乳がん50)」が授業の講師を務める。センター(同市)の梅村定司医師

### 橋本の市立15小学校

話し合いなどを取り入れ、なじみやすいよう工夫した。子供に不安を与えず、生活習慣の改善などでがんは防げること、早期発見の大切さや、かかった人を自分も支えられると知ること、重点を置く。授業参観で保護者を交えることもある。

授業の前後には、子供たちががんや授業内容についてアンケートを実施。ある学校は、児童の82%が「がんは治らない重い病気」と

話していたが、授業後44%に減少。「がんについて家族と話したことがある」は、53%が85%に増えた。ほとんどの児童が授業は分かりやすく、がんについて自ら考えたいと回答。「早く発見できれば治りやすいと知って恐怖心は少なくなりました」「家族がかからないように話をしたい」などの感想もあった。同病院の広報担当者は「自分を含め、人の命の大切さや人権を重んじる心を学んでくれたと思う」と話している。

## 予防や対処法「恐怖減った」

【松野和生】